

「コンボルト型屋外貯蔵タンク」視察

石油タンク施設老朽化に伴う施設更新の検討案の一つとして、日本の各業界で主流となっているコンボルトタンクを製造しているコンボルト・ジャパン（株）にご協力頂き、コンボルトタンクに関する説明を受けた後、製造工程の視察見学を行った。

また、コンボルトタンクの設置をすでに行っており、本県のまぐろ延縄船等もお世話になっている沖縄県漁連にご協力頂き、現地視察および意見交換を行った。

梅雨明けの猛暑にも関わらず、対応頂き大変参考になる視察研修となった。

視察受入にご協力いただいた関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。

世界24カ国に約40,000基の販売実績を誇る **CONVAULT JAPAN, INC.**



国内初の防油堤一体型の屋外貯蔵タンク
環境にやさしい 次世代型燃料タンク



コンボルト型屋外貯蔵タンクシステム
評価番号：危評第0054号（平成21年10月14日）



国土交通省の厳しい審査をクリアした新技術
NETIS登録番号：QS-100037-VE（平成28年3月18日）



「コンボルト型屋外貯蔵タンク」紹介

屋外燃料タンク製造・販売のコンボルト・ジャパン（沖縄県うるま市・島袋修社長）は全国の漁協の船舶給油施設へのタンク導入を進めています。製造する燃料タンクは、「コンボルト型タンク」の名称で知られ、角型の鋼製タンクを厚さ15センチメートル以上の鉄筋コンクリートで被覆した堅固な構造が特徴の屋外設置型の燃料タンクとなっております。その徹底した漏れ防止構造から従来型の屋外燃料タンクでは必要不可欠だった防油堤を省くことのできる国内唯一の屋外燃料タンクとなります。

東日本大震災の際には、沿岸部の屋外燃料タンクが津波で流され、津波火災や海洋汚濁など二次災害に繋がったことから、防災意識が高まり、全国各地の漁協関係者から需要が生まれております。

沿岸部でも塩害やさびに強く、防油堤の水抜きや清掃、地下埋設タンクに求められる法的な漏洩点検も不要となり、維持管理が容易になることも顧客から喜ばれる理由の一つとなっております。

令和元年には、各省庁から選出される「第3回インフラメンテナンス大賞」を受賞いたしました。同賞は、日本国内のメンテナンスに係る優れた取り組みや技術開発を表彰・促進し、メンテナンス産業の活性化およびその理念の普及を図ることを目的としており、厳しい自然環境に耐えうる高耐久性と日常の安全点検が目視で容易に行うことが可能なメンテナンス業務の効率性を高く評価されております。

また、設置には、完成品を現場に搬入するため、工期の短縮が見込めるのもメリットの一つとなっております。

近年問題となっている老朽化した地下埋設タンクの更新にも一役買っており、サイズは1キロリットルから35キロリットルまで9種類のラインナップがあり、燃料確保に課題がある離島や大型の船舶給油施設まで様々なニーズに対応が可能です。自然災害が頻発する現代社会において、万が一に備えた燃料確保、管理者不足や環境問題を抱えた漁協関係者から、期待が大きいタンクとして注目されております。

コンボルト・ジャパン株式会社
〒904-2311 沖縄県うるま市勝連南風原 5192 番地 21
TEL:098-929-0821 FAX:098-929-0823
HP:<http://www.convault.jp/>

